

「とっとりプラットフォーム5+α」の取り組み紹介

鳥取県立美術館の建設現場を訪問しました

4月22日(金)に鳥取短期大学の学生40名が、6月13日(月)には鳥取大学の学生24名が現在建設中の鳥取県立美術館の現場を訪問し、鳥取県立美術館パートナーズ株式会社の設計・施工担当者から、設計および工事の概要説明を受けた後、普段は資料や映像でしか



見ることでできない施工中の杭工事、基礎工事などを見学しました。

とっとりプラットフォーム5+αでは、今後も、事業者の協力を得ながら、建築系を学ぶ学生にとって貴重な機会となるこの建設工事現場を、県内高等教育機関の学びの場として活用させていただくとともに、構成団体を通して、新美術館の認知度向上に協力していくこととしています。



「とっとりプラットフォーム5+α」共同研究事業報告会を開催しました

6月29日(水)、「とっとりプラットフォーム5+α」共同研究事業報告会を、会場とWEB配信のハイブリッド型で開催しました。

今回は、「少子化対策」「女性雇用」「社会人の学びやすい仕組みの導入と推進」の3つの社会的課題の解決に向け、行政や構成団体の皆様に実践的な研究成果をフィードバックしました。

1 「学児希望女性へ向けたからだ心を整えるシェルハブメゾットの効果」

鳥取看護大学 看護学部看護学科 鈴木恭子 助教

2 「保育者の定着に関するキャリアラダーの有意性」

鳥取県社会福祉協議会 福祉人材部 名越善彦 参事

3 「地元企業とつくるMOT人材育成のための教育プログラム」

米子工業高等専門学校 総合工学科(情報システム部門) 河野清尊 教授



令和4年度「とっとりプラットフォーム5+α」共同FD・SD研修会を開催

この研修会は、県内5つの高等教育機関と自治体および経済・医療福祉団体等が連携・協力して、鳥取県の高等教育および地域の活性化を図ることを目的として開催しています。

今年度は9月1日(木)に会場とオンデマンド配信のハイブリッド型で実施し、参画団体のみなさまより希望の多かった「DX」分野について、「鳥取県におけるDXの取組ー県庁DXチャレンジ」と題し、鳥取県総務部行財政改革局デジタル改革推進課の下田耕作課長にご講演いただきました。



DXとは、これまでのやり方(慣例、習慣、流儀、発想)を、デジタルツールの特性を活かして大胆に改革するデジタルイノベーションであること、そしてその取組で肝心なのは「何をを目指すのか?」「誰にとっての改革か?」等ゴールイメージを共通認識することであると、実例を挙げながらお話いただきました。

今後も、地域のさらなる発展をめざして、有意義な情報を提供できる研修会の運営に努めていきます。

グローバルセンターの活用法 ～ボランティア依頼 編～

グローバルセンターでは、学生の自主性と社会性を養うことを目的に、ボランティア活動をサポートしています。

ご提供いただける活動内容の詳細やボランティア情報票を、掲示板等から学生へ情報提供し、とりまとめ後に申込み状況等を連絡させていただきます。

「ボランティア情報票」は、ホームページより、ダウンロードしてご活用ください。

<発行> 鳥取看護大学・鳥取短期大学グローバルセンター 〒682-8555 鳥取県倉吉市福庭854
TEL:0858-27-0107 FAX:0858-26-9138 E-mail:glocal@cygnus.ac.jp

<印刷> 有限会社 矢積印刷 倉吉市宮川町2-36



鳥取看護大学
鳥取短期大学

グローバルセンターだより
Glocal Center

第11号 2022.9.15発行



とびだせ! 地域へ! 地域もキャンパス



終わりの見えないコロナ禍の中、感染対策をしっかりと取りながら、学生たちは地域のみなさんと一緒に今できる活動を全力で行っています。その姿を見ながら思います。自分の暮らしは自分で豊かにするんだと。いつも選択権は自分の手にあります。前へ! 前へ! 飛び出せ、地域へ!

「元気な倉吉づくり 市長と“はなし”しよいや」を開催、そしてその後は・・・

5月22日(日)、鳥取看護大学かんとりい☆ホールにおいて、倉吉市長広田一恭氏と本学の学生(看護大・短大あわせて19名)の意見交換会を開催しました。これは、新しく就任された広田市長の「若い世代の人たちが倉吉市に住み続けるためにはどうすればよいかを直接聞きたい」という意向から企画されました。「授業が終わったあとは何をして過ごすか」「買い物はどこです?」といったことから、「こんな企業で働きたい」等将来を語るテーマまで幅広く、和やかに意見交換を行いました。

若者の志向など初めて知ることも多く、とても有意義な時間でした。そして、その中から出てきた「倉吉駅周辺でゆっくりできるカフェがほしい」という意見を具現化すべく、現在「大学生応援! 倉吉駅周辺カフェマップ製作委員会」を学生有志と倉吉市企画課、グローバルセンターで立ち上げました。これから学生たちが主となってカフェマップを作り、学内外で配布、周知する予定です。まだまだ知らない地域のいいところはたくさんあります。それを若者の視点で発見していく。このような活動を通して、地域と学生たちのつながりがより深いものになることを期待しています。



「大学生デジタルリーダー活動 始動!」

学生が、スマホの操作に不安のある高齢者に使い方を教えることで、情報格差を是正し、また世代を越えた住みよいデジタル社会の形成を目指す取り組みが始まりました。これは、倉吉市とソフトバンク株式会社、学校法人藤田学院が連携し今年度からスタートしたもので、倉吉市の各地区コミュニティセンターでソフトバンクが中心となり「スマホ教室」として開催、学生たちは事前に研修を受け、デジタルリーダーとして参加します。



その第1回目を、7月13日(水)に上灘コミュニティセンターで実施しました。尋ねたいことをメモして来られた方や、操作方法をノートに記入される方など、みなさんとても熱心で、教える学生たちも優しく丁寧に対応していました。会場は終始和やかな雰囲気に包まれ、世代間交流の意義深さ、大切さを実感しました。終了後学生たちからは「もっとわかりやすく伝えるために勉強したい」等の意見もあり、引き続き研修も行いながらデジタルリーダーとしてのスキルをアップさせていきたいと思っています。



「NPO法人未来主催イベント「第21回SUN-IN未来ウォーク」

6月4日(土)と5日(日)、鳥取県中部を舞台にしたウォーキング大会「第21回SUN-IN未来ウォーク」に、学生たちが司会や会場アナウンスなど、運営補助のボランティアとして参加しました。

学生たちは、イベントの運営方法などを学ばせていただきつつ、暑い中お越しいただいたウォーカーのみなさんとの交流の中で、「自身がここ倉吉をもっと知ること」「積極的に活動すること」など、今後の活動への課題を見つけることができました。本学は今後も、このような中部を盛り上げていける活動に積極的に協力していきます!





梅雨の気配を感じる6月5日(日)、倉吉市昭和町自治公民館で出前型「まちの保健室」を開催し、3名の看護大生、短大生がボランティアとして活動しました。当日参加された19名のみなさんはご近所同士ということもあり、とても和やかな雰囲気の中で、学生は計測のサポートや参加者のお話をお聞きする活動を行う一方、ミニ講話「〇〇しながらセルフケア」の際には、教員の話に合わせて肩こり予防や下肢の筋力トレーニングを一緒に行いました。

このように、学生たちは地域に出て、大学内だけでは得られない学びをさせていただいています。今後も体や心の健康について地域の方と一緒に考えたりお伝えしたりする活動に取り組みます！

鳥取短期大学 国際文化交流学科 / 地域とつながる！

7月17日(日)、専攻科国際文化専攻と国際文化交流学科の学生が、とっとり県民カレッジ講座の市町村連携講座「つながる先の可能性！～地域と若者がまちを変える～」において、「地域交流」という授業で、観光をテーマにリサーチ活動を行ったこと、地域活動（サークル活動、ボランティア等）に取り組んだことなど、学びの



実践発表を行いました。当学科は、文化の多様性を学びつつ、様々なコミュニケーション力を身につけ、社会で活躍できる人材を育成しています。地域と連携しながら鳥取の魅力を広く発信し、新たな観光資源を開発するなどクリエイティブな学びを充実させる「創作的観光人材育成プログラム」も開講しており、観光産業の現場で働いている方や、観光産業に興味のある方などと一緒に学びを深めています！



鳥取短期大学 生活学科 食物栄養専攻 / 後期も“食栄”から目が離せない！



食物栄養専攻は、学修した内容を発揮する機会として、地域イベントへの参加に積極的に取り組んでおり、6月25日(土)には、倉吉市大御堂廃寺跡において開催された「第10回中部発！食のみやこフェスティバル」に1・2年生有志14名で「りんご」「さつまいも」「抹茶あずき」の3種類の「とりたんおからケーキ」を販売するブースを出展しました。前日に合計約350食を調理・包装し準備していましたが、当日は酷暑の中にもかかわらず、お昼前には完売してしまう予想以上の反響をいただきました。

この他にも、企業とタイアップし、食育弁当やお菓子などの開発にも取り組んでいます！今後も食物栄養専攻にご注目ください！

鳥取短期大学 幼児教育保育学科 / 地域で楽しむ！地域で盛り上げる！

6月11日(土)	第6回ボランティアフェスティバル 倉吉福祉センター	上島特別研究	おはなし会
		羽根田特別研究	うたのおにいさんおねえさん スマイルコンサート
6月26日(日)	第10回中部発！食のみやこフェスティバル 倉吉市大御堂廃寺跡	羽根田特別研究	うたのおにいさんおねえさん スマイルコンサート
7月1日(金) ～7日(木)	七夕飾り 倉吉駅	1年生	「子どもの造形指導法Ⅰ」
8月19日(金)	みらい楽演祭 倉吉未来中心アトリウム	山川智馨 助教	～夏の夜風に誘われて～ ヴァイオリン&ピアノデュオ コンサート
9月3日(土)	めいりんフェスティバル 明倫地区	学生有志	あそびのブース

幼児教育保育学科は、子どもたちの育ちを支え、地域社会に貢献する保育力と人間力を磨くため、大学内での活動以外に、前期は上記のようなイベントなどに参加してきました。学外実習や休日に実施される補講の日程と重なる場合もあり、いただいたオファー全てにお応えすることはできませんが、できるだけ地域へ飛び出し、より多くの地域のみなさんと出会いたいと考えています。公演依頼等、お気軽にご相談ください！



フランスを知る＆楽しむイベントを開催！

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により海外研修ができない現状において、学生が外国を身近に感じ、興味や関心を持つきっかけになるようにと、両大学では、様々な催しを企画しています。

6月8日(水)、交流センターにて三朝町国際交流員(当時)のアラン・マリーさんによる講演会「France Day」(鳥取短期大学国際交流委員会企画)を開催しました。マリーさんの出身地であるシャンパーニュ地方の紹介や簡単なフランス語のあいさつ、フランスの教育システムや三朝町との関わりなどについてお話いただき、学生からは「フランスの文化や知識を知ることができて、とても楽しく充実した時間が過ごせた」「ぜひフランスに行ってみたい」「今後も海外について知るイベントに参加したい」などの感想がよせられました。

続いて7月6日(水)には、English Café×映画研究会サークル×鳥取短期大学国際交流委員会のコラボ企画「フランス映画上映会」を開催しました。まず、レヴィ・レイモンド先生(鳥取短期大学 国際文化交流学科)が、フランス文化が根付くカナダのケベック州について簡単なクイズを交えながら紹介し、その後、みんなでフランス映画「大統領の料理人」を鑑賞しました。

主となって計画した映画研究会のサークル長は終了後、「参加者に『フランス映画っておもしろい！他のも見たい！』と新たな楽しさを得てもらえたことが一番嬉しかった。また楽しいイベントを企画したい」と話し、次回が楽しみな企画となりました。



ユニセフの活動紹介を行いました！

7月4日(月)から15日(金)まで、鳥取短期大学とりたんホール展示スペースにて、鳥取県ユニセフ協会のご協力をいただき、世界規模で子どもたちの命と権利を守る活動を行っているユニセフ(UNICEF:国際連合児童基金)の活動内容や子どもの権利条約、SDGsについて紹介するパネルや栄養剤、学用品などの支援グッズを展示しました。



また、この展示に連携し、国際文化交流学科1年の授業「異文化コミュニケーション」では、鳥取県ユニセフ協会より講師をお招きし、ユニセフの活動についての講義を行いました。学生たちは、この展示や授業をとおりて、世界の子どもの現状や子どもの権利条約、SDGsについて理解を深めるきっかけとなりました。

◆令和4年度 鳥取看護大学・鳥取短期大学地域研究・活動推進事業助成金◆

当センターでは、鳥取看護大学・鳥取短期大学の建学の精神である「地域に貢献する人材の育成」に基づき、両大学の地域研究・活動等をさらに促進する観点から、地域研究・活動推進事業助成金制度を設け、教職員が行う地域研究・活動を支援しています。

今年度採択された研究は、次の9件です。

今年度採択された研究テーマ	
倉吉市内のシニアクラブ会員のハガキ出し運動の効果検証とご当地音頭による健康づくりの試み	
鳥取県内における看護学史・医学史を探る ～その2	
看護学生による高齢者疑似体験における視線変化 — 簡易的な視線追従装置を用いて —	
地域文化観光資源としての民藝の可能性	
日系外国人労働者と業務請負業者の労務管理 — 出雲市を例に —	
鳥取県における野生鳥獣による農作物被害とジビエの利活用に関する研究 — いなばのジビエ推進協議会の取組を事例として —	
対話型鑑賞を通じた異文化交流の実践	
乳児期親子の関係性支援における保育士訪問に関する研究 — 支援プログラムを活用した家庭訪問運営体制の実践的取り組みの検討 —	
鳥取県における音楽文化の振興に関する研究 — 「若き音楽家のためのおさらい会@米子」の実践と出演者へのアンケート調査から —	